

NUAL

名古屋大学全学同窓会
NAGOYA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

Newsletter

No.18 平成 24(2012)年 10月

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



名古屋大学全学同窓会と国内・海外支部の設立
Establishment of the Nagoya University Alumni Association and its Domestic/Overseas Branches

Contents

特集 名古屋大学全学同窓会設立10周年の経緯・・・2
The 10-year History of the Nagoya University
Alumni Association
活躍する会員たち・・・・・・・・・・・・・・6
NUAL People in Action

同窓会ニュース・・・・・・・・・・・・・・10
NUAL News

事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・16
From the NUAL Office

名古屋大学全学同窓会は、皆様の多大なご支援のもと、今年設立10周年を迎えることができました。今回は、本同窓会設立の背景や理念、国内・国外支部の設立、各種事業の発展の様子などをまとめ、10年のあゆみを振り返ります。

The Nagoya University Alumni Association (NUAL) was able to celebrate its 10th anniversary thanks to your great support. This time, we would like to look back on the 10-year history of NUAL, including its background and mission, establishment of domestic/overseas branches, and development of various projects.

名古屋大学全学同窓会設立10周年の経緯

The 10-year History of the Nagoya University Alumni Association

名古屋大学全学同窓会
代表幹事
伊藤 義人



1. はじめに

名古屋大学全学同窓会は、平成16年度の国立大学の法人化を控えた、平成14年10月27日（日）に設立されました。11万人を越える会員を持つ同窓会であり、豊田章一郎会長はじめ、多くの卒業生・修了生に、設立からこの10年間大変ご尽力を頂きました。

一時に大きな資金を集めて、一部の私立大学の同窓会のような活動を行うべきという議論もありましたが、10年後、20年後に後ろを振り返った時に、設立の理念に沿って成長していることを少しでも実感できる総合国立大学らしい全学同窓会にすることが基本方針でした。10年を経た今、これが実現の方向に向かっているのか、少しだけ振り返りたいと思います。

2. 全学同窓会設立の背景と経緯

従来からあった学部や学科単位の同窓会だけではなく、大学全体の同窓会が必要であるということは、古くから認識されていたようです。私立大学や国立の単科大学の中には、全学レベルの強力な同窓会を持つ大学があることはよく知られていました。ある部局同窓会が、名古屋大学創立50周年を契機に、全学展開をしようとして、反対があり頓挫したと聞いています。部局同窓会からの働きかけだけでは、全学レベルの同窓会設立は難しいということでした。

平成12年に、私は附属図書館長に就任し、国立大学図書館協議会で法人化の議論を始めて、名古屋大学も法人化によって独自の経営や社会とのつながりが必要となることを強く感じました。それまでも、土木工学科の同窓会「鏡ヶ池会」の幹事や幹事長を経験してきましたが、平成13年に工学部・工学研究科同窓会の副会長になり、大学本部と部局同窓会の両方に足がかりができ、全学同窓会設立の絶好の機会だと思いました。そこで、工学部・工学研究科同窓会の幹事会で全学同窓会設立の起案を行い、各部局同窓会に働きかけることを了承してもらいました。この後、部局長会で一緒であった医学部同窓会「学友会」の会長（医学部長の勝又先生）や経済学部同窓会「キタン会」の事務局長など、主な部局同窓会の役員とコンタクトを取りました。国立大学の法人化対応ということで概ね賛同を得ました。大学全体が社会に開かれ、種々の情報公開やアカウントビリティが求められていた状況が背景としてあったと思います。すなわち、まず卒業生・

修了生などと連携協力し、大学への理解と支援を得て、そこから社会に開かれた大学を目指すということでした。

しかし、どの部局同窓会も財政事情は苦しく、分担金などの負担はできないので、全学同窓会は独自の財政基盤を築くこと、および全学同窓会は部局同窓会の上位組織ではないということを前提にしてほしいということでした。すなわち部局同窓会からは、人的な支援と精神的な協力にとどめてほしいということでした。

そこで、平成13年10月に松尾総長（当時）にご相談して、設立準備委員会を評議会の上で立ち上げてもらい、総長指名で私が委員長になりました。松尾総長は、私が教授として所属した理工科学総合研究センター（現エコピア科学研究所）の初代センター長であり、土木教室の先輩教授でもあったので、相談がしやすかったという事情もありました。

本来は、部局長会で設立準備委員会設置の承認をしてもらう予定でしたが、手違いで急遽評議会での承認になりました。設置前の各部局同窓会などの意見を集約して、基本的な賛同を得ると共に、どのような問題点があるかをまとめていたので、各部局同窓会やその他から委員を出してもらい直ぐに検討を行うことができました。平成13年12月には正式な合意ができ、全学同窓会設立に向けて次の段階の設立委員会が設置され、以後毎月委員会が開催されました。

事業、財務、名簿の3つの小委員会も同時に設置されました。最初に、設立の理念を作成するため、全学同窓会のあり方を徹底的に議論しました。全学レベルの同窓会の名称については、種々の案が出ましたが、議論の末、平凡ですが、「名古屋大学全学同窓会」としました。英文名称は「Nagoya University Alumni Association」として、略称を「NUAL（ニューアル）」としました。その後、会則案、役員案などを順次決定しました。平成14年3月には、全学同窓会プレ発会式を行い、設立委員会委員、部局同窓会役員、総長・副総長などの学外・学内の方々の懇談会を行いました。太田全学同窓会顧問には、このとき大変お世話になりました。そして、平成14年10月27日に、約600人の参加者を集め、豊田講堂で設立総会、記念講演会、祝賀会を実施致しました。図-1と図-2(a)、(b)が、そのときのポスターと設立総会の時の写真及び新聞掲載記事です。豊田章一郎氏が全学同窓会会長に就任されました。

法人格（当時は中間法人や社団法人）を取得することも検討するため他大学の状況も調査に行きましたが、税制上の特典が得られないなどの理由であきらめました。

3. 名古屋大学全学同窓会の特徴

名古屋大学全学同窓会は、「大学と社会を結ぶ必須の組織として新しいタイプの同窓会を目指す」ことを会の目的としています。すなわち、大学を支援し、また大学と一緒にって社会貢献を目指すことを主な目的としています。そのため、社



図-1 設立総会のポスター



図-2(a) 設立総会の写真

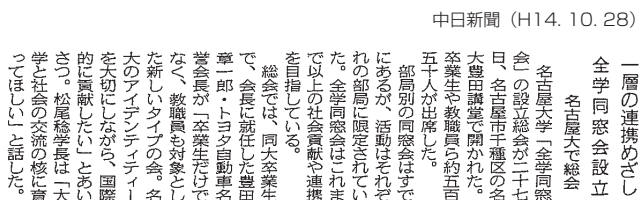


図-2(b) 新聞掲載記事

会貢献人材バンクを作ること考えました。以後、部局同窓会の協力を得て、インターネットを使った卒業生等の電子名簿データベースにつながり、現在では、これを発展的に全学同窓会から大学へ移管し、再構築して全ての卒業生・修了生のレコードが整備され、インターネットを使って自分の住所変更を留学生も含めて登録できるようになりました。まだ、発展途上ですが、今後、多くの卒業生・修了生の利用を期待します。

全学同窓会は、卒業生や修了生だけでなく、教職員、旧教職員、短期留学生、現役学生（準会員）など、名古屋大学に在籍された方や学位を取られた方など、名古屋大学関係者全てを同窓会員としていることも1つの特徴です。

全学同窓会は、最高意思決定組織として評議員会有り、日常の運営に関しては幹事会で審議しています。1期2年任期の代表幹事に関しても、ここで投票を行って候補者を決め、最終的に評議員会で承認を行っています。幹事会の下に代表幹事と4つの常置委員会委員長で構成される幹事会運営委員会と各部局同窓会の責任幹事からなる責任幹事連絡会があります。責任幹事連絡会は、大学支援事業の選定も行っています。これ以外に幹事会メンバーを構成員とした4つの常置委員会（事業、名簿、広報、連携）が現在動いています。

4. 設立後の10年間の活動

1) 国内支部と海外支部の設立

全学同窓会が出来て直ぐの平成15年3月26日（水）に関

東支部の設立を行いました。関東には、2万人以上の卒業生・修了生が在住しており、学士会館で設立総会を行い、丹羽宇一郎副会長が支部長にられました。その後、浜松を中心に活動していた遠州会を支部として認定しました。国内3番目の支部として、関西支部を設立し、箕 哲男氏が支部長にられました。

全学同窓会が特に力を入れてきた海外支部の最初の支部として、2005年に韓国支部を設立しました。韓国では、既に名古屋大学の卒業生・修了生の会があり、地域ごとのまとまりもありました。平野総長（当時）にもソウルに行っただけ設立総会を開催しました。図-3の地図に10の海外支部の設立時期を示します。バングラデシュ支部は、ホームカミングデイにあわせて豊田講堂で開催された総会の席で、丹羽宇一郎副会長からKhan 支部長に支部旗を渡していただきましたが、それ以外は全て現地に出向き、設立総会を開催して、総長から支部旗と支部認定証を渡していただきました。

海外支部は、名古屋大学を卒業・修了し故国に戻られた留学性を中心となって運営し、支部長もその中から選ばれ、駐在している日本人の卒業生・修了生は、支部のサポート役を担っていただいています。大学の国際化に貢献できる海外支部を目指しています。

設立後直ぐのホームカミングデイには、その支部長を招待していますが、平成22年度には、海外全支部長をご招



図-3 海外支部の設立状況

待し、ホームカミングデイの企画行事に参加いただきました。そして、平成24年度は全学同窓会設立10周年を記念して、また全ての海外支部の支部長を招待してお祝いをする予定です。

2) 大学支援事業

大学支援事業として、名古屋大学が法人化された平成16年度から、公募型の事業支援を始めました。①学生活動支援、②就職支援、③本部・部局活動支援、④その他に分類し、年2回の学内公募をして、これまで57件、21,714,400円を支援しました。また、同時期に卒業生などを講師に招聘した寄付講義「キャリア形成論」を開講し、通年開講（最初の2年間は半年開講）をして、好評を得ています。

3) 名古屋大学カードの発行

2年間の準備期間を経て、平成19年2月から、財政基盤整備を主な目的とした名古屋大学カード（同窓会カード）の発行を開始しました。図-4に示す豊田講堂のレリーフの付いたヤングゴールドカードで、年会費は永年無料です。国内・海外旅行保険やポイントなどは、全て個人に付きませんが、売り上げの一定割合が同窓会の収入になります。現在、約9,000名の加入があり、年間約700万円の収入を大学支援に当てています。今後、重要な大学支援の財源になりつつあります。



図-4 名古屋大学カード

今回の全学同窓会設立10周年記念で、カード会員が1万人となることを目標にしています。この名古屋大学カードを使うだけで、大学とのつながりが意識でき、かつ、大学支援になりますので、是非ともこの機会にご入会ください。Webでスピード入会もできます。

<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

4) 情報発信

大学と協力して、平成16年度から「大学と全学同窓会からのお知らせとお願い」を全卒業生・修了生に毎年1回お送りしています。大学や全学同窓会の活動を報告するとともに、ホームカミングデイへの招待や名古屋大学基金へのお願いなどを行っています。なお、豊田会長の要請により、同窓会への寄付についてはバラバラにお願いするのではなく、この中で統一してお願いして、指定された部局同窓会や全学同窓会に配分するようにしています。

また、全学同窓会はNewsletterを年2回発行して、支援会費をいただいた方やホームカミングデイ、卒業式において配布しています。全学同窓会のホームページは日本語版だけでなく、英語版も作成して、最新情報を掲げています。図-5に現在のトップページを示します。



図-5 全学同窓会ホームページのトップページ

5) ホームカミングデイ

ホームカミングデイは、大学主催行事ですが、全学同窓会からも大学に実施を要請し、法人化後の翌年の平成17年度から継続的に実施され、毎年4000人前後の人達が参加しています。名古屋大学のホームカミングデイは、もちろん、卒業生・修了生がメインの対象者ですが、現役学生の保護者や大学周辺の市民をも対象としています。このホームカミングデイは、今年で8回目となり、かなり定着してきており、豊田講堂での名古屋フィルハーモニー交響楽団の演奏は特に人気があります。全学同窓会の総会をホームカミング

デイの中で実施したこともあります。最近、「名古屋大学の集い」を豊田講堂で行い、卒業・修了後10年ごとの周年記念の方々には特別な配慮も行なわれています。私は平成20年度からホームカミングデイのディレクターを担当しており、全学同窓会とのつながりも行っていきます。

図-6(a)、(b)に第7回ホームカミングデイ(H23)の案内看板及びパンフレット(H24)を示します。また、図-7に、このホームカミングデイ(H22)での「名古屋大学の集い」における海外支部長紹介時の写真を示します。



図-6(a) ホームカミングデイの案内看板 (H23)

6) その他

全学同窓会は、講演会や各種事業への後援などの活動も行っています。また、卒業式と入学式には、会長や副会長が来賓として出席し祝辞を述べています。大学の経営協議会などのメンバーとして、全学同窓会の副会長などが参画し活躍していることは、まさに、全学同窓会の設立によってできた人材バンクによるものと言えます。

5. 全学同窓会の今後の課題

名古屋大学全学同窓会設立後からずっと課題になっているのは、まず財政基盤の確立です。大学支援や社会貢献事業を拡大するためには、財政基盤の整備が重要ですが、全学同窓会の財政基盤は、当初、支援会費(任意で支払っていただく会費:年一口5000円)と寄付金を原資としていました。その後、大学支援の資金を捻出するため、前述した同窓会カード(名古屋大学カード)事業を平成19年から始め、経年的にその収入を増加させ、大学支援の貴重な財源となっています。しかし、全学同窓会の運営費などに充てている支援会員の数は毎年減少しており、今後の大きな課題となっています。常置委員会として、財務委員会を置いたこともありますが、ほとんど機能せず、この役割を幹事会運営委員会に移して、カード事業を始めました。今後は、人材が得られれば、再度、財務や企画の委員会を組織する必要があるかもしれません。

2つめの課題は、全学同窓会の活動を直接支援いただける会員の確保と組織化です。国内支部においても、熱心に活動いただける会員もいますが、高齢化がすすんでおり、若手の会員の理解と活動が全学同窓会には重要と思います。部局同窓会でもそうですが、若手の会員は同窓会活動をして何のメリットがあるかということ、をまず聞きます。それに対しては、参画するなかで、提案型で見つけ出してほしいと回答しています。存在感のある全学同窓会になるために、さらなる人的ネットワークの強化が必要だと思います。

設立から10年がたって、名古屋大学全学同窓会は、課題が山積していますが、後ろを振り返ると、少しは足跡を残し、当初考えた設立の理念に沿って進んでいるのではないかと思います。



図-6(b) 第8回パンフ表紙 (H24)



図-7 ホームカミングデイでの名古屋大学の集い (H22)

今後とも、建設的なご批判と物心両面でのご支援をお願いいたします。

参考文献

- 1) 伊藤義人: 全学同窓会の設立-名古屋大学全学同窓会 NUAL -, 学生会報, No.838, pp.180~183, 2003年

活躍する会員たち NUAL People in Action

第18回は、大学院環境学研究科に社会人入学し博士を取得され、美術館設計等でご活躍の浜田英明さん、経済学部を卒業し政策プランナーとして名古屋市の街づくりに貢献され、現在名古屋市立大学特任教授としてご活躍の吉井信雄さんにご登場頂きました。

The 18th article covers the activities of Mr. Hideaki Hamada and Mr. Nobuo Yoshii. Mr. Hamada received a PhD from the Graduate School of Environmental Studies and is currently working in the field of museum architectonics. Mr. Yoshii, who graduated from the School of Economics, has been involved in urban development activities in Nagoya city as a policy planner and is currently working as a designated professor at Nagoya City University.

浜田 英明さん



■略歴

- 1981年 石川県生まれ
- 2004年3月 名古屋大学工学部社会環境工学科卒業
- 2006年3月 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻博士課程（前期課程）修了
- 2006年4月 株式会社 佐々木睦朗構造計画研究所 入社（現在に至る）
- 2008年4月 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻博士課程（後期課程）社会人入学
- 2011年3月 学位取得 博士（工学）

■資格

一級建築士

■専門

建築構造

■所属学会

日本建築学会

■構造設計とは

私が現在勤務する佐々木睦朗構造計画研究所は、名古屋大学の卒業生で2004年度まで環境学研究科教授を務めた佐々木睦朗（現在は法政大学教授）が主宰する、建築構造設計事務所です。

「構造設計」という言葉は皆さんにはあまりなじみがないかもしれません。「構造」というのは、建物の柱や梁、床、壁、基礎などのことで、人間の体でいうところの骨格にあたります。「構造設計」というのは、建物にどのような力が働いて、その力によってどのように建物が挙動するかを理解・把握した上で、それぞれの建物に最適な構造形式を提案し、そこに暮らす人々に安全と安心を与える行為です。

そして私が師事している佐々木睦朗はこれまで磯崎新さんや原広司さん、伊東豊雄さん、妹島和世さん、西沢立衛さんなど世界的に著名な建築家の方々と協働し、斬新な建築を生み出してきた世界的な構造設計者であります。皆さんにもなじみの深い代表作としては、札幌ドームやせんだいメディアテーク、金沢21世紀美術館、梅田スカイビルなどが挙げられると思います。私はその下で、日々薫陶を受けながら一人前の構造設計者となれるよう

精進している次第であります。

構造設計の面白さは、様々なモノづくりと同様に「創造する」という点にあると思いますが、特に、自分が思い描いた空間を自分の力で生み出し、自分の体で感じられる点だと思っています。

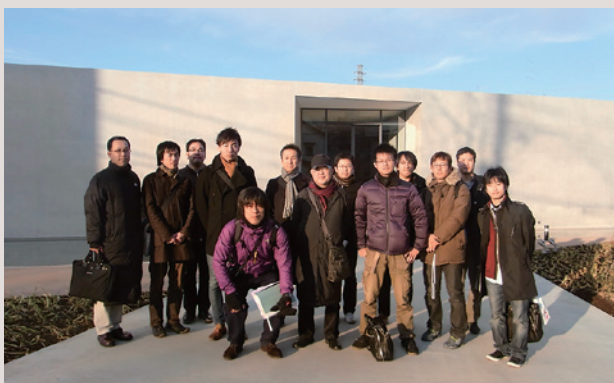
■豊島美術館の紹介

最近、私が構造設計に関わった物件の中で、特徴的なものをひとつ紹介したいと思います。

香川県の瀬戸内海に浮かぶ豊島（てしま）に2010年に竣工した豊島美術館です。この美術館は芸術家の内藤礼さんと建築家の西沢立衛さんとのコラボレーションによる美術館で、「水滴」をコンセプトとして、環境と美術と建築の融合を目指したものです。

我々は西沢さんのイメージを具現化するため、扁平な自由曲面をもつ鉄筋コンクリートシェルの実現に挑戦しました。40m×60mの平面を厚さたったの25cmの鉄筋コンクリートの床版で軽やかに覆ってしまうというものです。

シェル構造というものは、自然界においてもニワトリの卵や貝殻などに見られます。卵や貝殻は机の角などの集中的な力が働くようなところにぶつけると簡単に割れてしま



事務所関係者集合写真（2011年竣工、三栖右嗣記念館前にて）



豊島美術館の外観



豊島美術館の内観

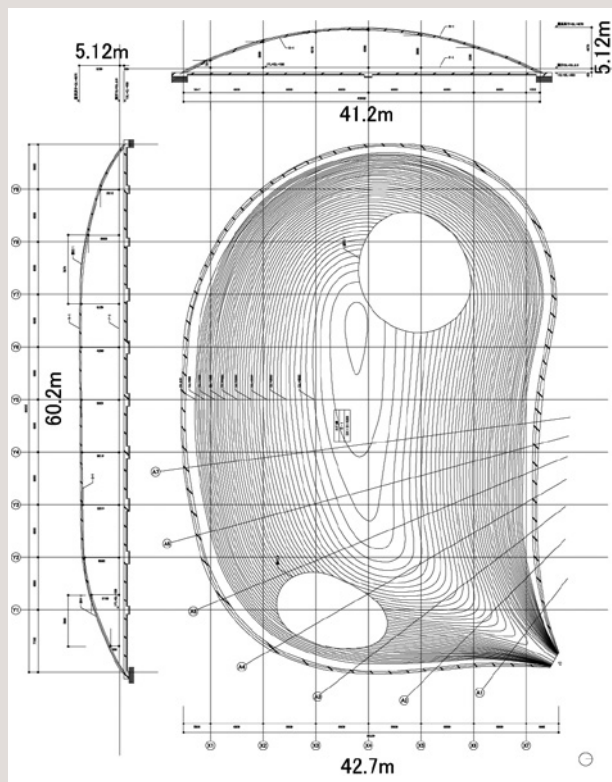
いますが、手のひらなどで均等に力がかかるようにした状態で押しつぶしてみてもなかなか割れないことは皆さんも経験したことがあるのではないかと思います。なぜそのようになるかと言いますと、シェルはその形状が曲率を持つことにより、加えられた荷重を材料が最も力を発揮しやすい軸方向の力に上手く均等に変換することができるからです。したがって、薄い材料でも効率的に大きな空間を覆うことができるのです。

シェルにとっては、力学的に合理的な形状をどのように決めるかということが重要となります。さらに、シェルは構造体そのものが建物の実体ですので造形的に美しくなくてはなりません。

エンジニアリングと造形的表現を両立することができるシェル曲面形状を導く工学的な手法が必要です。このような手法の一つの具体例が「構造形態創生法」と呼ばれるものです。

この手法を用い、西沢さんの造形的なイメージを損なわない範囲で力学的にも合理的なシェル曲面形状を求め、さらには工事に携わっていただいた様々な方々のご協力を得ることで、豊島美術館のような特徴的なシェル構造物を無事実現することができました。

私は、大学院時代、構造形態創生の分野の権威であ



豊島美術館 平面図 断面図

ります大森博司先生（環境学研究科教授）の下で、この手法についての研究を行ってまいりました。ですので、私自身といたしましても、大学院時代の研究を実務において十分に生かせたということで非常に貴重な経験をさせていただいたと思っております。

また幸いなことに、この建物は2012年度日本建築学会作品賞など様々な建築関係の賞を受賞し、幅広い評価を頂きました。

皆さんも機会がありましたら、是非一度、豊島美術館に訪れてみてください。今まで味わったことのないような不思議な体験ができると思います。

吉井 信雄さん



■略歴

昭和45年 名古屋大学経済学部卒業
同 46年 名古屋市職員採用
同 58年 総務局企画課主査（大都市問題の調査研究）
同 60年 秘書室秘書課主査（市長秘書）
平成 3年 秘書室主幹
同 6年 総務局企画部企画課長
同 10年 総務局企画部長
同 13年 市民経済局理事（産業・流通担当）

同 15年 監査事務局長
同 16年 公営企業管理者（交通局長）就任
同 20年 依願解職・名古屋市代表監査委員
同 24年 任期満了・名古屋立大学経済学部特任教授就任

その間、総合研究開発機構（NIRA）主任研究員、名古屋立大学経済学部附置研究所客員研究員、名古屋大学工学部大学院非常勤講師、名古屋立大学芸術工学部非常勤講師等を歴任。

はじめに

キタン会（名古屋大学経済学部同窓会）事務局を通じて「活躍する会員たち」と言う題で執筆を依頼された。活躍している会員ならごまんといるのに何故私？自問した結果、自治体職員ということかと自分を納得させ筆をとった。

自治体行政とは

利潤の極大化しか考えない姿勢が嫌になり、民間企業をやめ名古屋市役所に奉職して40年、実にやりかひのある面白い仕事をさせてもらったと、心から感謝している。

国家行政が巨大化し過ぎて全体像が見えにくいのに対し、地方は可視的で全貌を把握することが容易である。しかも、「ゆりかごから墓場まで」と言われるように、私たちが生活をする上で必要な、ほとんどすべての事柄を、市役所は取扱っている。また、都道府県と異なり住民と直接接する仕事のため、良くも悪くも生の手伝えが得られるのは、市町村行政ならではの醍醐味である。

色々な仕事を経験させてもらったが、政策プランナーとして陰に陽に街づくりに参画できたことは貴重な経験となった。特に平成元年に、市制施行百周年を記念して実施された「世界デザイン博覧会」によって名古屋の街並みが一新されたことは思い出深い。

交通局長として経営改革に取り組む

現役の最後に、全く未経験の交通事業管理者（交通局長）に任命された。初めての素人局長の誕生である。今考えるとそれがかえって幸いであった。常に“市民目線”で考えることができたからである。

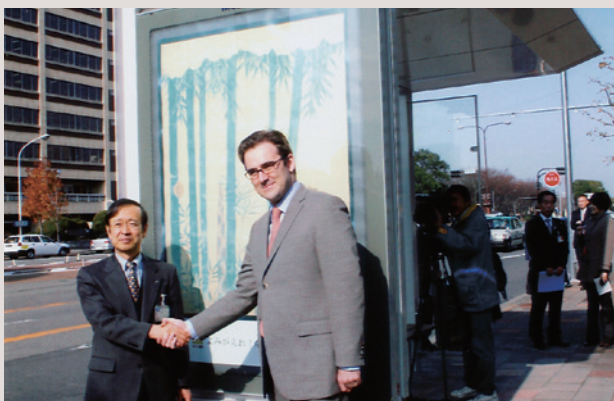
トップの役割は船長と同じで、進むべき方向を明らかにし、それに向かって全職員の意識の共有化を図ることに

ある。私はそれを“ベクトル合わせ”と呼んでいた。そのために、様々なことを実践したが、中でも私が最も成功したと思うことは、32か所ある公所（現場）に出かけ職員に自分の想いを直接語ったことであった。「なぜ給与をカットするのか」「交通局の将来をどう考えているか」など延べ30時間以上話をした。これを私は“熱伝導”と呼んだ。

我が国の近代化を推進した人々の精神的支柱であった佐藤一斎の言葉に“我れ自ら感じて、而る後に人之れに感ず”というのがある。国民、市民の生活にとって影響の大きいことは、トップがその想いを自分の言葉で直接語りかけることがなによりも大切である。そのためにはトップの側に“強い想いと熱”がなければならない。現在の我が国の指導者に国を想う熱き想いを感じとれないのは残



第6回「日本鉄道賞」受賞を祝して職員が手作りで作成したポスター



コストをかけずにおしゃれなバス停を設置～民間活力の導入～

念でならない。

結果は開業以来初の連続黒字を達成し、現在バスは5年、地下鉄は3年連続黒字を達成している。事業経営を経験させてもらったことがその後の人生観に大きな影響を与えた。自分の力を越えたもっと大きな力（天の采配）の存在を感じることができるようになった。まさに、“天の時、地の利、人の輪”がうまく噛み合った結果だとしみじみ思う。

学生に経験を伝える

人生80年、還暦を過ぎ、トラック競技で言えば第4コーナーを回ったところに差し掛かった。振り返れば公務員生活40年、今は、多くの市民の皆様の血税でこれまで育てて頂いたという感謝の思いで一杯である。

敗戦の反省からか、戦後「修身・道徳」の時間がなくなり、アメリカ式生活様式の実現に官民挙げて邁進した結果、“志や天”といった言葉が日常から消えて久しい。軸が定まらず、肚ができていないため右顧左眄する政治家をみるにつけ、維新の指導者は偉大であったという思いと、このままではこの国が危ういという危機感が交錯する。

吉田松陰の熱き想いが時代を回転させ、天を敬する西郷隆盛の肚が明治維新を成功させたことを思うとき、“人間学”（人としていかに生きるべきか過去の偉人から学び、伝える学問）の必要性をつくづく感じる。

国の礎は人である。いくら技術が優れていても、経済力があっても、それを支える人がしっかりしていなければ国は亡びる。地域に密着した市政の経験を通して人間学を是非若い人に伝えていきたい。その熱い想いを胸に現在、名古屋市立大学の教壇に立っている。

私の最後のチャレンジが始まろうとしている。

おわりに

よく“Know how より Know who”と言われる。同窓会とは“Know who”の宝庫である。キタン会を縦糸と



「お客様にありがとうといってもらえるサービスを」を基本方針に接客でISO9001の認証を取得



「日本鉄道賞～鉄道利用促進賞～」の授賞式（2007年10月15日於東京）



鉄道シンポジウムで基調報告をする筆者（2007年10月29日於名古屋マリオットアソシアホテル）

すれば全学は横糸。両者相まって美しい布になる。総合大学である強みは事務・技術系のみならず医系まで含めすべて揃っていることであろう。“総合行政”が不可欠な名古屋市において工学部、医学部を含め2千名を超える名大卒業生がいることは紛れもなく職務遂行上大きな利点であった。

全学同窓会の一層の発展を期待したい。

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

タイ支部 NUAL Thailand Branch

タイ支部交流会開催される

AC21の打ち合わせなどのために濱口総長がタイへ行かれたのを機に、平成24年7月19日(木)、タイのバンコクで名古屋大学全学同窓会タイ支部の交流会が開催されました。約7年前の平成17年12月14日(水)に全学同窓会タイ支部設立総会が行われたラマ・ガーデンズホテルの同じ会場で交流会は行われました。日本側からは、濱口総長、伊藤勝基名誉教授(医学系研究科)、齋藤名誉教授(生命農学研究科)、山口教授(農学国際教育協力研究センター長)、田中教授(生命農学研究科)、スネート講師(国際開発研究科)、原口教授(グリーンモビリティ連携研究センター)、井戸講師(AC21コーディネータ)、鎌澤課長補佐(国際部国際企画課課長補佐)、伊藤義人教授(全学同窓会代表幹事)が参加しました。タイ側からは Suprasert 支部長や副支部長(3名)などのタイ人の卒業生・修了生および日本人でタイに駐在している数名の卒業生が参加して、全部で50名ほどの参加者になりました。

タイ支部は、初代支部長の Neungpanich Sinchaisri 氏がガンで亡くなられ、2代目の支部長にカセサート大学獣医学部長の Apinun Suprasert 教授が就任されていました。齋藤先生には、タイ支部設立時に大変お世話になりましたが、今回も種々の手配をしていただきました。タイからの名大留学経験者の名簿も今回整備して、冊子を作っていました。

Suprasert 支部長には、あらかじめ図-1に示すような交流会のパンフレットを作成していただきました。

交流会は、7月19日(土)の夕方6時半過ぎから行なわれました。まず、最初に Suprasert 支部長の歓迎の挨拶があり、その後、タイの名古屋大学日本人会会長の元尾昭彦さん(Advanced Laser Technology 代表)からの歓迎の挨拶がありました。元尾さんは、長くバンコクに駐在し、名古屋大学のアカデミックガウンをタイで製作して輸入するのに力を貸して下さいました。

その後、濱口総長から歓迎に対するお礼と名古屋大学への今後の支援に関する依頼がありました。この後、相互に記念品の贈答がありました(図-2)。

Suprasert 支部長から、スライドを使って、卒業生・修了生の名古屋大学時代の思い出やタイ支部設立時の写真などを使った楽しいプレゼンテーションがあり大変盛り上がりしました。この後で、ステージ前で、参加者全員の記念写真

(図-3)を撮りました。

その後にディナーになりましたが、総長が各テーブルを回られたときは、テーブルごとに記念写真を撮りました。大変和やかな交流会になりました。交流会の最後に、出身部局別の記念写真も撮り、閉会になりました。

今回の総長の視察では、名古屋大学のアカデミックガウンを着て、チュラロンコン大学の卒業式に半日出席したり(図-4)、これまであまり交流のなかったチュラボン大学への表敬訪問も行われました。チュラボン大学は、医学部が有名ですが、1学年1000人を超える医学部生を持つ大学で、広大なキャンパスを持っていました。

たくさんの留学経験者の卒業生・修了生から大変歓迎され、また、AC21などを活用した今後の名古屋大学の国際化に全学同窓会が貢献できる可能性を確かめた交流会になりました。

名古屋大学全学同窓会代表幹事 伊藤 義人



図-1 歓迎プログラム



図-2 総長と Suprasert 支部長



図-3 参加者の記念写真



図-4 チュラロンコン大学卒業式

関東支部 NUAL Kanto Branch

関東支部は、学士会館内にあります。学士会館は、七大学の卒業生や、教員などによる歴史あるアカデミック・コミュニティクラブです。志を高く持たれる熱意ある人々と交流していただきたいと思ひます。毎月、講演会と食事の夕食会・午餐会、また、関東と関西で若手懇談会等を開催するとともに、学士会報・U7の雑誌を発行し、会員に送られております。

来春には、若手を対象とした新春講演会を名大卒の講師にて下記の通り予定しております。

学士会「新春講演会」開催概要

- 日時：平成25年1月8日（火）
19時から講演
20時15分から立食式交流会
- 講師：橋本孝之氏
日本 IBM 会長（工 S53卒）
- 演題：「地球を、より賢く、よりスマートに
～ IT の可能性 ～」

詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.gakushikai.or.jp/>

関東支部は、幹事会を開催して、全学同窓会の動向、大学の動向の情報交換をするとともに、事業計画を話し合っております。

名古屋への活動として、本年は愛知サイエンスフェスティバルの市民向け講演会「先端科学技術と社会」へ、下記にて協力しました。

第2週：10月6日（土）14時～16時

三井住友銀行 SMBC パーク栄

「素材は社会を変える：航空機材料から水不足解消まで」
鈴木伸夫 東レ(株)代表取締役副社長（工 S45卒）

来年は、関東支部設立10周年になりますので、2月12日（火）に記念講演交流会を丹羽支部長ともども企画しており、実行委員会を立ち上げております。企画案などございましたら、幹事や事務局までご連絡願ひます。

尚、本年4月より、東京連絡所には、常駐者がいなくなりましたので、連絡所のメールアドレス等もなくなりました。問い合わせは、全学同窓会本部か、当面は、下記の事務局長の片岡までご連絡願ひます。

■連絡先 関東支部事務局長 片岡大造
E-mail kataoka@sol.dti.ne.jp

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch

名古屋大学遠州会の活動

名大遠州会の第17回同窓会・第9回総会が平成24年6月16日（土）夕刻よりオークラクトシティホテル浜松にて、来賓として昨年に続いて濱口総長と伊藤全学同窓会代表幹事をお迎えし、会員90名弱が出席して盛大に開催されました。総会は前年の物故会員への黙祷で始まり、庄田武会長の挨拶の後、平成22、23年度の事業報告、会計報告、次いで役員改選を行い佐々木健氏（農 H05）、福井孝始氏（工 S46）、鈴木鉄郎氏（経 S48）が選出され、佐々木勉氏と内山宏之氏が退任されました。続いて濱口総長か

ら、創薬科学研究科の新設、大学の国際化の進行状況、リーディング大学院プログラムのスタート、大学建物の新設状況、教職員の国家公務員同等の給与カットの件など多岐に渡る大学の現状と課題、将来ビジョン、などについて具体的にかつそれに取り組む強い思いが語られました。伊藤代表幹事からは全学同窓会の設立10周年記念行事、台湾支部の設立、名大基金、同窓会支援会員などについてお話がありました。この総会の様子は地元静岡新聞、中日新聞に写真入りで掲載されました。総会後の懇親会には来賓のお二人にもご出席いただき、軽妙なテナーサックスの演奏で寛いだ雰囲気の中、世代を越えて歓談したり、総長を囲んだ記念撮影を行うなど楽しいひと時を過ごし、来年も参加することを誓って9時前に終了しました。

(事務局 原田憲道 記)

■連絡先 名大遠州会事務局長 原田憲道
E-mail ensuhrd@yahoo.co.jp



濱口総長を囲んで

関西支部 NUAL Kansai Branch

関西支部では、平成24年9月2日（日）大阪弥生会館にて、支部幹事会が開催され13名の幹事が参加し、下記事項が決定されました。

- ① 平成24年度関西支部総会は平成25年1月以降6月までに開催することとし、具体案は今後検討する。
- ② 今年度のホームカミングデイへの関西からのバスツアー参加は都合により中止する。
- ③ 関西支部の幹事は原則として各学部・学科同窓会関西支部の責任者（会長または支部長）と事務局の2名とする。
- ④ 関西支部の組織的な運営を語るため、次回総会までに運営内規を定める。

また、今年度の各学部・学科関西支部同窓会の行事予定を調査した結果は次表のとおりでした。関西地区在住の会員の皆様には是非ご参加いただきたくお願い申し上げます。

東山会 関西支部 (工学部機械学科)	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇親会
	今年度の開催予定	
	開催日時	平成24年11月3日（土） 15：00～19：00
	場所	大阪弥生会館
	講演	名古屋大学・水野幸治教授
	責任者	支部長 安田幸伸（S39卒）
問合せ先	事務局 深谷修 e-mail: cacsj205@hen.zag.ne.jp	
鏡ヶ池会 関西支部 (工学部土木学科)	恒例行事	年1回の支部大会と銀しゃち会 (60歳以上の支部会員の集い)
	今年度の支部大会実施状況	
	開催日時	平成24年9月14日（金） 18：30～
	銀しゃち会開催予定	
	開催日時と場所	平成24年11月に開催予定 (具体案未定)
	責任者	支部会長 浜島鉦一郎（S47卒） e-mail : hamajima.koicro@oakis.co.jp
問合せ先	支部幹事長 鳥居 剛（S54卒） e-mail : torii@cpcinc.co.jp TEL : 06-4300-3202	
関西名法会 (法学部)	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇談会
	今年度の実施状況	
	開催日時	平成24年10月12日（金） 講演会：18：30～19：30 懇談会：19：30～21：00
	場所	大阪弥生会館
	講演	名古屋大学大学院法学研究科 紙野健二教授
	責任者	会長 脇田喜智夫（S50卒）
問合せ先	事務局 和久利俊次 e-mail : wakuri@office.hannan-u.ac.jp 藤井浩雅 e-mail : h-fujii@sonata.plala.or.jp	
セコイア会 関西支部 (農学部)	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇談会
	今年度の開催予定：未定	
	責任者	支部長 加藤寿郎（S45卒）
問合せ先	幹事 寺前朋浩（S61M 卒） e-mail : teramae@sc.sumitomo-chem.co.jp	
二葉会 関西支部 (工学部電気学科)	恒例行事	年1回総会・懇談会
	今年度の開催予定	
	開催日時	平成24年11月24日（土） 17：00～20：00
	場所	大阪弥生会館
	責任者	支部長 藤井眞澄（S44卒） fujii-m@kanden-plant.co.jp
問合せ先	二葉会ホームページ参照	

関西キタン会 (経済学部)	恒例行事	新年懇談会と年1回の総会・講演会・懇談会
	今年度の総会実施状況	
	開催日時	平成24年7月20日(金) 17:45~20:30
	場所	阪急グランドビル26F
	講演	名大二葉会 関西支部長 藤井真澄 (関電プラント(株)代表取締役社長) 「最近の電力事情について: 関電の状況を交えて」
	平成25年度新年懇親会: 詳細未定	
	責任者	会長 伊貝武臣 (S43卒) 副会長 入谷善久 (S43卒)
	問合せ先	事務局 竹村 聡 e-mail: take55@office-takemura.com TEL: 06-6947-6011
応化会 関西支部 (工学部応用化学科)	恒例行事	隔年で総会・講演会・懇談会と工場見学会
	今年度の実施状況	
	工場見学会	平成23年5月 新日本製鉄(株)広畑製鉄所見学
	総会	平成24年6月9日(土) 15:00~18:30
	講演	学友会奈良支部長 竹村恵史 (S48卒) 「TPPと日本の医療」
	場所	大阪弥生会館
	今後の予定	
	平成25年工場見学会、平成26年総会	
責任者	支部長 川嶋右次 (S39卒) e-mail: riverisland@zb.ztv.ne.jp TEL: 077-545-4195	
問合せ先	同上	
共晶会 関西支部 (工学部金属学科)	恒例行事	毎年3月第1土曜日 総会・懇親会
	今年度の開催予定	
	開催日時	平成25年3月9日(土)
	場所	大阪丸ビル「大阪第一ホテル」
	責任者	支部長 木村雅保 (S50卒)
問合せ先	幹事 天野真次 (H6卒) e-mail: amano.shinji@kobelco.com	

文学部・文学研究科同窓会 Letters

文学部・文学研究科同窓会 創立10周年記念祝賀会を開催しました!

さる7月7日(土)豊田講堂シンポジオン2F レストラン「ユニバーサル・クラブ」にて上記祝賀会を開催しました。

当日は約30名の同窓生、教員が集まり、お一人ずつの近況報告、当時の思い出等をおうかがいするなど、楽しく旧交を温めました。

■連絡先 運営委員会書記 植田裕志

E-mail bun-doso@lit.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/~bun-doso>



出席者全員での記念撮影

農学部 Agriculture

「なごみ桜」

名大農学部の桜酵母と酒米とを用いて、名大農学部関係者が醸したオール名大の日本酒

生命農学研究科、あいち産業科学技術総合センター食品工業技術センター、盛田株式会社小鈴谷工場(後者2機関は同研究科卒業生が関与)は、平成21年度に愛知県知的財産活用促進事業費補助金を活用して農学部の八重桜から分離した「名大桜酵母」を用いて試験醸造を行いました。平成22年度は「名古屋大学農学部発日本酒プロジェクト」として地域貢献特別支援事業(総長裁量経費)を得て、農学部学生の協力を得ながら、6月から同研究科附属の東郷フィールドにおいて酒米「若水」を栽培し、12月から盛田(株)小鈴谷工場清酒部において「名大桜酵母」と「名大農場米」を用いて純米酒を醸造し、3月に名古屋大学消費生活協同組合から500ml瓶で約700本販売しました。酒質は、アルコール度数が12~13%と低く、アミノ酸が多く含まれ、ほんのり甘酸っぱいワインタイプであり、100名以上の名大関係者の84%が「美味しい」と評価し、特に普段飲酒しない20歳代女性の93%から「美味しい」との高評価を得ました。平成23年度は酒米の作付面積を拡大し、前年度と同じスケジュールを進め、11月に生命農学研究科内で愛称コンテストを行って「なごみ桜」と命名し、商標登録も行いました。3月の卒業式頃に約1000本を販売したところ、本日本



なごみ桜パッケージ



名大桜酵母を採取した名大農学部構内の八重桜



名大農学部学生による農場での酒米の田植え



盛田(株)における名大農学部学生も参加した醸造風景

酒が学内で認知され始めたようで、販売開始数日で売り切れてしまう程の人気でした。そこで、名大日本酒プロジェクト運営委員会としては、名古屋大学在校生、卒業生、応援して下さる方々のためにも、今後も産官学連携事業として継続したいと考え、平成24年度も、前年度と同規模で日本酒製造を進めております。来年3月の卒業式には名大生協の店頭に並びますので、是非、お試しください。

■名大日本酒プロジェクト運営委員会
 名古屋大学大学院生命農学研究科
 教授 黒田俊一
 電話：052-789-5227

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

大学支援事業目録贈呈

4月10日（火）、平成24年度第1回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成23年度第2回）採択者に目録が贈呈されました。



目録贈呈式

今回は、応募総数7件から、4件が採択されました。これら事業の内容は、実施後に本誌で紹介するとともに、全学同窓会 HP でも公開する予定です。

全学同窓会では、ホームカミングデイ開催支援や寄付講義実施支援の他、平成16年度から公募型の本事業を開始し、年2回（8月と2月）募集を行っています。平成23年度までに、学生活動支援27件、本部・部局行事支援10件、就職支援8件、その他12件を支援しています。

平成23年度第2回 採択事業

申請者所属・氏名	事業名
国際交流協力推進本部 本部長 渡辺 芳人	名古屋大学におけるグローバル人材育成のためのキャリア教育支援
医学部保健学科 理学療法学専攻・教授 鳥橋 茂子	人体解剖トレーニングセミナーの開催
工学研究科 物質制御工学専攻・助教 森 隆昌	学生による福島除染ボランティア活動
留学生センター アドバイジング・カウンセリング部門・特任准教授 田所 真生子	グローバルリーダー育成プログラムの実施

同窓会行事カレンダー

全学及び部局同窓会行事が下記のとおり開催されます。

詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○農学部同窓会関東支部総会

会合名：第15回名古屋大学農学部同窓会関東支部
総会

日 時：平成24年11月17日（土）16：00～20：00

場 所：学士会館 203号室

東京都千代田区神田錦町3-28

Tel：03-3292-5936

連絡先：E-mail：alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

Tel：080-5057-8131

次 第：①総会議事・連絡等

②特別講演 第三の人生

i) 林産化学と志望の動機、恩師・諸先輩との出
会い

ii) これまでの研究を俯瞰する

iii) 80歳の現在も研究を続ける動機と心境、学問
の夢

名古屋大学名誉教授 寺島典二 先生
(林産化学)

③特別公演 ヴァイオリン・ソロ・コンサート
齋藤アンジュ玉藻 さん

④懇親会 参加費：6,000円（予定）

○経済学部「キタン会」

東京キタン会紅葉狩り

日 時：平成24年12月1日（土）12：00～

場 所：芝「とうふ屋うかい」

会 費：7,000円

連絡先：東京キタン会事務局 渡瀬悟

渡瀬税理士事務所

東京都千代田区飯田橋4-4-8

東京中央ビル205

Tel：03-5216-7246 Fax：03-5216-7247

E-mail：sato@watase-tax.com

<http://www.watase-tax.com>

○工学部機械系学科同窓会「東山会」

工学部機械系学科同窓会「東山会」では、今年
12月に第11回イブニングサロンを開催します。今回は
日本機械学会東海支部との共催で、以下のような内
容を予定しております。

日 時：平成24年12月11日（火）18：00～20：00

場 所：名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
3階ベンチャーホール

●講演1

講師：中部電力(株)

火力部建設グループ 奥村 桂三 氏

(昭和61年機械学科卒45回生)

講演題目：上越火力発電所の建設概要について

●講演2

講師：トヨタ自動車(株)

パートナーロボット部部长 玉置 章文 氏

講演題目：介護医療支援向けパートナーロボットの開発
東山会会員の活躍をひろく会員に知らせるための、
気軽に楽しくご参加いただける企画です。お申込方法
につきましては、11月に詳細をお知らせ致します。皆様
のご参加を心よりお待ちしております。

(東山会 庶務理事 成瀬一郎)

問い合わせ先：東山会事務局

Tel/Fax：052-789-2714

E-mail：mechalum@mech.nagoya-u.
ac.jp

<http://www.higashiyamakai.com/>

○関東支部「二葉会」

日 時：平成25年2月1日（金）19：00～21：00

場 所：五反田ゆうほうと

東京都品川区西五反田8-4-13

TEL：03-3490-5111

会場案内図：<http://www.u-port.jp/access.html>

会 費：8,000円（予定）

問い合わせ先：

小竹論季（H19卒） 三菱電機(株)

E-mail：Kotake.Nobuki@bp.

MitsubishiElectric.co.jp

○名大遠州会第18回同窓会

日 時：平成25年6月15日（土）

場 所：オークラアクトシティホテル浜松

連絡先：名大遠州会事務局長 原田憲道

E-mail：ensuhurd@yahoo.co.jp

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

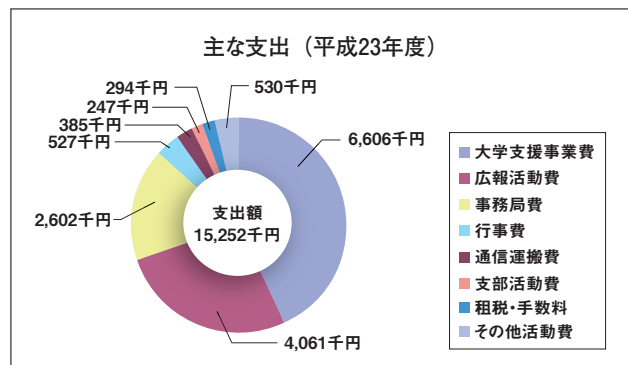
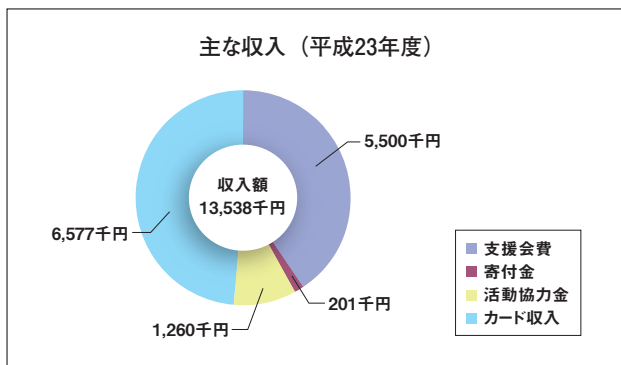
名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄付金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

- 支援会費 Supporting Fee 支援会員 Supporting member : 一口 5,000円
支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

- 支払い方法 郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043

自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

皆様からお寄せいただきました支援会費、寄付金、活動協力金等は、大学支援事業、ニュースレター発行等の活動に使わせていただきました。



●東日本大震災義援金の募集

名古屋大学全学同窓会では、東日本大震災被災者への義援金を募っています。皆様からの温かいご支援をお待ちしております。

- 銀行名 三菱東京 UFJ 銀行 本山出張所 (店番号 670)
- 口座名義 東日本大震災義援金 (ヒガシニホンダイシンサイギエンキン)
名古屋大学全学同窓会 (ナゴヤダイガクゼンガクドウソウカイ)
代表者 伊藤義人 (ダイヒョウシヤ イトウヨシト)
- 口座番号 普通 0040031

《必ずご確認ください》

- ・義援金は、日本赤十字社に寄付します。
- ・税制上の優遇措置は受けられませんので何卒ご了承ください。
- ・義援金に対する領収書及びお礼状の送付は省略させていただきますのでご理解ください。
- ・振込手数料は各自でご負担くださいますようお願いいたします。

「名古屋大学カード」でつながる大学支援

年会費永年無料! 家族会員 (1名) も無料です。
加入者は、9,000名を超えています!!



OB 企業等による優待サービス

木工家具、宝石、ビジネス週刊誌、プライダルサロンなどを優待価格でご利用いただけます。詳しくは、下記 Web ページをご覧ください。

<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集後記

全学同窓会が10周年を迎えました。本広報誌NUALも、同窓生の皆様のご支援のおかげで少しずつ発展していくことができました。今後も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.18 平成 24 (2012) 年 10 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集: 名古屋大学全学同窓会広報委員会